

どなたさまもご苦労様です。

市町村合併から10年以上が経過、本年は第1次総合振興計画の最終年となり、現在、第2次黒部市総合振興計画が策定中でありま
す。

人口減少・少子高齢化によって人口構造が変化し、そして北陸新幹線開業で首都圏から近くなり、人口移動が今まで以上に激しくな
っています。

今まで経験した事がない大変厳しい時代に突入していますが、先人たちが残していった素晴らしい故郷を継承しながら、「選ばれるまち・住み続けたいまち・くろべ」の実現に向けて取り組まなければ
いけません。

それでは、発言通告に従いまして一問一答方式にて過去から現在、未来へつなぐための2項目の質問をしたいと思います。

まずは1項目の「郷土芸能・伝統文化の継承について」です。

郷土芸能、伝統文化は、先人たちが作り上げ、その土地に受け継がれた固有のもので、大切な宝であると思っています。魅力のある地域には、必ず地域独自の個性があり、それぞれの地域が有している固有の文化によって形づくられています。

先人たちから受け継がれた文化を次に繋ぎ、誰もが黒部市に住み

続けたいと思えるような故郷であってほしい。そういう思いから郷土芸能・伝統文化の継承について質問します。

1点目。

黒部市には、郷土芸能、伝統文化などが、現在どれだけ存在しているのか。また、それらを大切な宝であるとの認識しているのか、を教育部長に伺います。

2点目。

現在、郷土芸能・伝統文化を市民に認知させるため、その価値に気付かせる為に行っていることはあるのかを教育部長に伺います。

3点目。

郷土芸能の支援と指導者や後継者育成の現状をどう考えているのかを教育部長に伺います。

4点目。

地域を愛する気持ちは、子どもの頃に体験した効果が大きいといわれています。そのことから「ふるさと教育」を積極的に進めていけないのかを教育長に伺います。

5点目。

郷土芸能、伝統文化の存在とよさが人々に伝わるように情報発信することが必要だと考えます。そのためには現在残されているものをまとめる必要があると考えます。未来を見据えて冊子、あるいはデジタルでまとめる準備を始めてはどうか教育部長に伺います。

6点目。

現在、そして10年後に郷土芸能、伝統文化はどうなっていると思うかを知る上で聞き取り調査を行ってはどうか教育部長に伺います。

そこで7点目。

郷土芸能、伝統文化だけではなく、史跡なども含めて、今後（10年後）の存続が危ぶまれる。「黒部市危機遺産リスト」の作成をしてはどうか教育部長に伺います。

次に2項目の公民連携（PPP）についてです。

人口減少・少子高齢化で、税収減が予想される中、市民サービス

の多様化が進んでいます。今後、ノウハウ、企画力、資金力を最大限生かして、賑わいや市の収入を生み出す施策が不可欠になると考えられます。今まで以上に民間活力が重要であり、行政はその後押しをすることで本市の発展につながると考えます。協働から連携へ。公民連携について質問します。

先ず1点目。

本市において公民連携の取組みと必要性について、どのような考えか総務企画部長に伺います。

2点目。

気軽に相談できる窓口の開設や意見交換会、セミナー開催などを検討してはどうか総務企画部長に伺います。

3点目。

NPOなどの市民団体が委託を受けやすくする環境を整え、担い手となるための基盤強化の支援も必要であると考えます。支援の考え方について総務企画部長に伺います。

そこで4点目。

現在、平成 30 年度から始まる第 2 次黒部市総合振興計画の策定作業が行われています。その中の計画にもある市民との協働が、今後ますます増えていくことが予想されます。公民連携について、目的、考え方、導入範囲など一定の決まりである「指針、ガイドライン」を本市において策定してはどうか市長に伺います。

是非とも「選ばれるまち・住み続けたいまち・くろべ」の実現に向けて進めていっていただきたいともいます。

以上で私の質問を終わります。